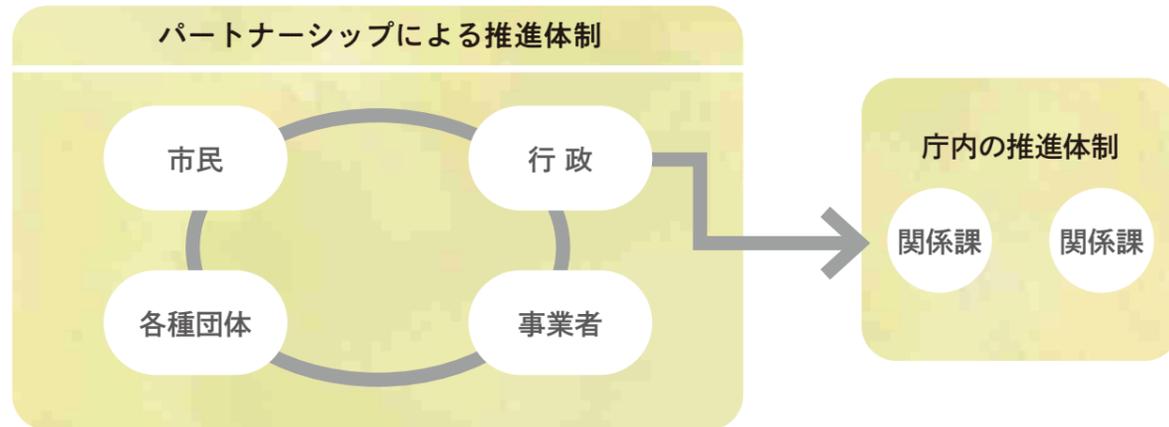
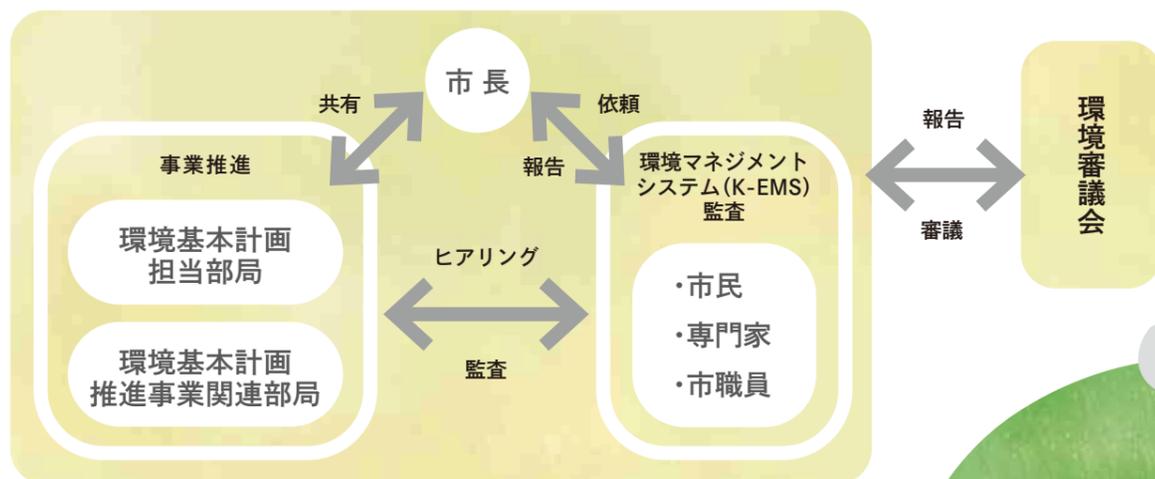


## 計画の推進

- **推進体制** 市内で環境に関する活動を行う団体が、それぞれの取り組み内容を共有したり、新しい協働プロジェクトを発足させたりなど、市内での横のつながりをつくる場を設定します。



- **進行管理** 市役所内の事務事業の進捗確認は、交野市環境マネジメントシステム(K-EMS)にて行います。K-EMSの年に1回の監査の際に、環境基本計画の関係課には、計画に掲げられた施策の実施状況や課題点についてヒアリングを行います。また、計画全体の進行管理は、環境審議会及び外部監査の活用を用います。



交野市  
発行:2022年3月





[第二次交野市環境基本計画]

# 未来へつなぐ環境づくり

～自然豊かな“かたの”を次世代に引き継ぎ、未来への基盤をつくる～

## 環境基本計画とは

- 環境基本計画は、地域と地球の良好な環境を保持し、持続可能な社会をつくるための計画です。
- 総合計画や、その他の計画とも整合性を図りながら進めていきます。
- 計画の推進は、行政のリーダーシップのもと、各種団体を含む市民・事業者の3者で協働して行います。

## 計画の期間

- 本計画の対象期間は、令和4年度(2022年度)から令和13年度(2031年度)までの10年間とします。
- この10年間は、2050年カーボンニュートラルという将来を考え、そこに向けた第一歩を踏み出すための最初の10年になります。



P.3-4

### 脱炭素社会

2050年カーボンニュートラルに向けた最初の10年の挑戦

環境目標

二酸化炭素排出量	平成25年度 (2013年度) 336,000t	マイナス 46%	令和12年度 (2030年度) 181,000t
----------	--------------------------------	-------------	--------------------------------

※本計画ではこの目標値以上を目指す  
※国の地球温暖化対策計画参照

例えば  
どんなこと...?

ゼロエネルギー  
ハウス

太陽光発電の  
設置

自転車・徒歩での  
移動

公共交通の  
利用

省エネ

再生可能エネルギー電気への切替

P.5-6

### 資源循環

資源が循環する、  
ごみの出ない社会をめざして

環境目標

家庭系ごみ 排出量	平成30年度 (2018年度) 448.1g/人・日	マイナス 100g	令和11年度 (2029年度) 348.1g/人・日
--------------	----------------------------------	--------------	----------------------------------

※本計画ではこの目標値以上を目指す

事業系ごみ 排出量	平成30年度 (2018年度) 3,869t/年	マイナス 5%	令和11年度 (2029年度) 3,675t/年
--------------	--------------------------------	------------	--------------------------------

※本計画ではこの目標値以上を目指す  
※交野市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画参照

リフューズ・リデュース  
リユース・リサイクル

例えば  
どんなこと...?

食品ロス削減

バイオマス発電

ごみの分別の拡大

ごみを出さない暮らし

リユースの場の拡大

P.7-8

### 自然共生

緑豊かな交野市の環境を  
次世代へ

環境目標

市域で観察できる動植物

これまでに市内で観察された在来種の動植物を  
令和13年度(2031年度)においても観察できる

外来種の駆除

例えば  
どんなこと...?

緑のネットワーク

生物多様性の保全

里山保全

地産地消

竹林の適切な管理

P.9-10

### 生活環境

市民みんなで作る  
安心して生活ができる空間

環境目標

大気	大気汚染に係る環境基準の維持・達成
水質	水質汚濁に係る環境基準の維持・達成
騒音・振動	騒音・振動に係る環境基準の維持・達成

環境調査の実施

例えば  
どんなこと...?

まちの美化

観光資源の活用

緑化の推進

空き家の発生抑制

気候変動に適応した  
暮らし方

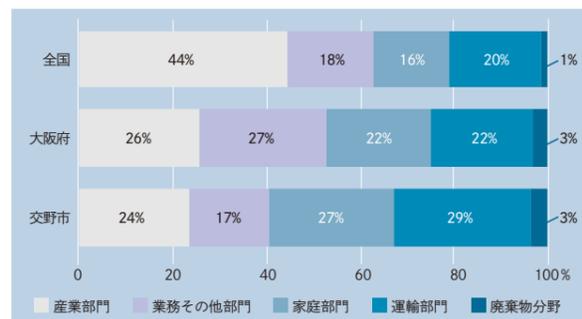
## 交野市の状況

### ■交野市の二酸化炭素排出量の推移



市域の二酸化炭素排出量は、平成25年度(2013年度)の336千t-CO<sub>2</sub>をピークに現在は減少傾向にあります。部門・分野別の割合で見ると、運輸部門が最も多く、29%を占めています

### ■交野市の二酸化炭素排出量の内訳



平成30年度(2018年度)の市域から排出されるCO<sub>2</sub>の部門別排出量を大阪府、全国と比較すると、本市は、産業部門の占める割合が少なく、家庭部門・運輸部門の占める割合が高いのが特徴です。

## 施策

### ■再生可能エネルギーの導入

再生可能エネルギーの導入促進 / 再生可能エネルギーに関する情報提供 / 環境負荷の少ない電力の購入の推進



▲第四中学校に設置された太陽光パネル

### ■脱炭素型ライフスタイルの構築

ゼロカーボンアクション(COOLCHOICE)の推進 / 交野市環境マネジメントシステムの推進



▲電気自動車に充電

### ■交通分野の脱炭素化

スマートムーブの推進 / ゼロエミッション車の導入促進 / スマートモビリティの検討

## 市民・事業者・行政の役割

	今すぐできること	状況を見て実行できること
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習会への参加</li> <li>再エネ電力への切替</li> <li>省エネの取組</li> <li>スマートムーブの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電設備の設置</li> <li>断熱改修</li> <li>ZEHの導入</li> <li>省エネ機器への買換え</li> <li>蓄電池の設置</li> <li>ゼロエミッション車への買換え</li> <li>スマートモビリティの検討</li> </ul>
事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>再エネ電力への切替</li> <li>自家消費型太陽光発電設備の設置</li> <li>PPAによる太陽光発電設備の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>RE100宣言</li> <li>ZEBの導入</li> <li>ソーラーシェアと自営線による直接売電</li> <li>ゼロエミッション車への買換え</li> <li>公共交通の脱炭素化</li> <li>地域でのエネルギー自給</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習の開催</li> <li>再エネ電力会社への切替支援</li> <li>情報提供</li> <li>ゼロカーボンシティ宣言</li> <li>入札時の電力評価基準の設定</li> <li>再エネ電力への切替</li> <li>公共施設に太陽光発電を屋根としたカーポートの設置</li> <li>K-EMSの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通への利用転換の促進</li> <li>公共交通の脱炭素化支援</li> <li>スマートモビリティの検討</li> <li>避難所での再エネ電源の確保</li> <li>PPAモデルを利用した太陽光発電の設置</li> <li>剪定枝をバイオマス発電で活用</li> <li>RE100宣言</li> <li>ゼロエミッション車への買換え</li> <li>RE100の達成</li> </ul>

## 再エネ・省エネの技術紹介

### ■ZEH (ゼロエネルギーハウス)



断熱、遮熱、高効率照明、ヒートポンプなどの省エネと、太陽光パネル、エネファームなどの創エネを組み合わせ、エネルギー収支が実質ゼロとなる住宅。

### ■VtoH (Vehicle to Home)

電気自動車を蓄電池として活用し、家庭で使用活用するしくみ。例えば、日中に太陽光発電し、消費しきれない分を電気自動車に溜めて、発電できない夜間に電気自動車から電力を家庭に供給したりすること。



### ■第三者所有モデル (PPA)



工場や大型店舗の屋根の上に、太陽光パネルをPPA事業者に設置してもらい、そこで作られる電気を購入して使う仕組み。初期費用がかからず、通常より安く電気を購入できる。

### ■ソーラーシェア

田んぼや畑、ハウスの上に太陽光パネルを設置して、電気と農作物を一緒に作る仕組み。



#### 用語解説

**スマートムーブ**  
移動によるCO<sub>2</sub>排出量を削減しようという試み。公共交通機関の利用、徒歩や自転車での移動、車での移動の際にはエコドライブに心がける、ゼロエミッション車に買い換える、などがある。

**カーボンニュートラル**  
二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量から、植林や森林管理による森林の吸収量や、大気中の除去量を差し引いた値がゼロになること。カーボンニュートラルを達成するためには、排出量を抑えることと、吸収量・除去量を増やすことが必要とされている。

**RE100宣言(アールイーひゃくせんげん)**  
再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱などの自然エネルギー)の発電設備を設置するか、再生可能エネルギーの発電所からの電気を購入し、再生可能エネルギーだけで電気をまかなうことの宣言。

**COOL CHOICE(クールチョイス)**  
日々の生活の中で地球温暖化対策になる商品・サービスを賢く選んでいこうと環境省が呼びかける取組。交野市も2019年に賛同することを宣言した。

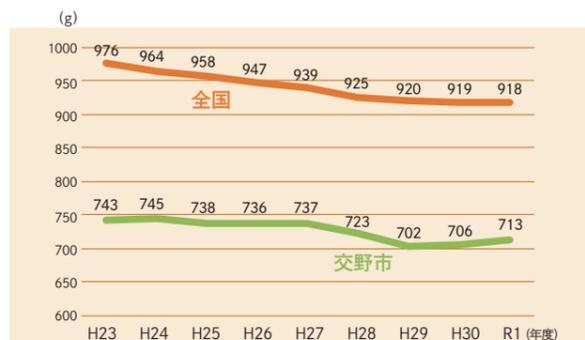
交野市の状況

■交野市のごみ処理量の推移



市域から出るごみ処理量のうち、家庭系が約8割を占めているのが、本市の特徴です。家庭系と事業系をあわせたとごみ処理量は、平成24年度(2012年度)以降、減少傾向にありましたが、令和2年度(2020年度)は家庭系が微増しています。

■ひとり1日あたりのごみ排出量



交野市のひとり1日あたりのごみ排出量は平成24年度(2012年度)から減少傾向にあり、令和元年度(2019年度)には713gでした。全国と比較しても200g以上低い値で推移しています。

施策

■ごみを出さないライフスタイルへの転換 (リフューズ、リデュース、リユース)

ごみを出さないライフスタイルの普及 / リユースの場の拡大 / 食品ロスの削減



▲必要なものはリユースショップで探そう

■資源を循環させるシステムの推進(リサイクル)

ごみの分別回収の徹底 / 製品プラスチックの分別回収



▲ふるしきもエコバッグに

■長期的視点で考える循環型社会の構築

ごみの有料化の検討 / 剪定枝のバイオマス発電での活用

市民・事業者・行政の役割

	今すぐできること	状況を見て実行できること
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコバッグの持参</li> <li>マイボトルの使用</li> <li>簡易包装の依頼</li> <li>シェアリングの活用</li> <li>食ロスの出にくい買物、保存、調理の実践</li> <li>詰替え、量り売りの利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フードドライブの活用</li> <li>3010運動の実施</li> </ul>
事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>フリーマーケットの開催</li> <li>シェアリングの活用</li> <li>詰替え、量り売りでの販売</li> <li>脱プラスチックの検討</li> <li>制服のリユース制度</li> <li>3010運動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フードドライブ拠点の設置</li> <li>剪定枝をバイオマス発電で活用</li> <li>プラスチック代替品の活用</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習会の開催</li> <li>4Rの推進</li> <li>フードドライブ拠点の拡大</li> <li>廃棄自転車の活用</li> <li>K-EMSの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの分別項目の追加</li> <li>製品プラスチックの分別検討</li> <li>ごみの有料化</li> <li>剪定枝をバイオマス発電で活用</li> </ul>

資源循環をする技術・方法の紹介

■バイオマス発電



バイオマスとは、動植物などから生まれた生物資源のこと。バイオマス発電では、この生物資源を燃焼させたり、ガス化させたりして発電する。間伐材や製材廃材、家畜の排せつ物、下水汚泥を使って発電する技術がある。

■シェアリングエコノミー

個人や企業が所有するもの、場所、スキルなどの有形・無形の財産を、ほかの人に貸し出すこと、あるいは貸し出すサービスのこと。例えば、民泊やカーシェアリングなどがある。



■フードドライブ



▲フードドライブの受付場所(市役所別館)

家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動のこと。

用語解説

**4R(よんアール)**  
ごみを減らす取組みの3R(リデュース=抑制、リユース=再使用、リサイクル=再生利用)にもうひとつのR(リフューズ=断る)を加えた4つの「R」のことをいう。

**海洋プラスチックごみ(かいはうプラスチックごみ)**  
プラスチック製品がポイ捨てなどきちんとした処分がされないことで、川などを通して海に流れついたプラスチックごみのこと。海洋汚染や、海の生態系に影響を及ぼすとされている。

**ワンウェイプラスチック**  
一度だけ使用した後に役目を終えることが想定されるプラスチックのこと。例えば、スプーンやストローなどのプラスチック製品、レジ袋やペットボトルなどの容器包装プラスチックがある。

**製品プラスチック(せいひんプラスチック)**  
「容器包装プラスチック」以外のプラスチックでできている製品。例えば、バケツ、プランター、プラスチック製のおもちゃなどがある。

交野市の状況

■交野市の耕地面積の経年変化



耕地面積は平成7年(1995年)以降減少傾向にあり、その内訳では特に田耕地面積が減少しています。令和2年(2020年)時点では、田耕地面積が165ha、畑耕地面積が49haで、両方を合わせた面積は市域の約9.5%にあたります。



シロバナウンゼンソジマ



ホタルブクロ



ササユリ

植物

交野市で  
観察できた  
生きもの

施策

■自然環境の保全と、自然と人間の共存

里山・生物多様性の保全 / 田畑の計画的な維持 / 獣害被害への対応 / 特定外来生物への対応

■自然を活用していく活動

まちなかのグリーンインフラの設置 / 里山保全 / 水環境の活用 / 観光資源との関わり

■地域と環境に配慮した農業の推進

地産地消の推進 / 環境に配慮した農業の推進 / 農業維持のための方策の検討



▲市民ボランティアによる竹林整備

市民・事業者・行政の役割

	今すぐできること	状況を見て実行できること
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山・竹林整備へ参加</li> <li>・猟友会との獣害対応</li> <li>・美化・緑化運動への参加</li> <li>・グリーンカーテンの育成</li> <li>・自然観察会への参加</li> </ul>	
事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を活かした観光資源のPR</li> <li>・地元農産品の販売の場の提供</li> <li>・農業体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田畑の組織的維持の検討</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猟友会との獣害対応</li> <li>・鳥獣被害のモニタリング</li> <li>・遊歩道の保全</li> <li>・森林環境譲与税の活用</li> <li>・自然を活かした観光資源のPR</li> <li>・環境配慮型農業の情報提供</li> <li>・公有地の適正な管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山地の適切な保全</li> <li>・田畑の組織的維持の検討</li> <li>・山の活用方法の検討</li> <li>・特定外来生物への対応</li> </ul>

用語解説

**森林環境譲与税(しんりんかんきょうじょうよぜい)**  
適切な森林の整備等を進めていくために、令和元年度(2019年度)から、市町村や都道府県に対して、国から譲与される税。

エシカル購入(エシカルこうにゅう)

「エシカル」とは「倫理的」という意味で、人や環境や社会に配慮した購入を行うこと。買い物をする際に、価格や品質だけでなく、どこで、誰によって、どのように作られたか考えること、その商品を購入すると社会にどのような影響があるのかを考えることもエシカル購入につながる。

生物多様性(せいぶつたようせい)

生物たちの豊かな個性とつながりのこと。私たちの生活は生物多様性から得られる様々な恵みと密接に関わり、遺伝子・種・生態系それぞれの多様性を保全していくことは、持続可能な社会の実現のためにも欠かせない。

有機JAS認証(ゆうきジャスにんしょう)

種まきや植え付けの2年前から禁止農薬や化学肥料、遺伝子組み換え技術を使用していない畑や田んぼで栽培される農作物を「有機農産物」として認証する制度。有機JAS認証を取得していない農産物に「有機」や「オーガニック」といった言葉を使用することは禁止されている。



ニホンアカガエル



アキアカネ



カワバタモロコ



ヘイケホタル



キビタキ



サンコウチョウ



アカギツネ

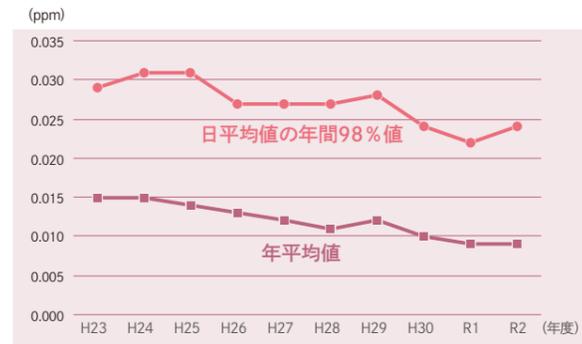
交野市で  
観察できた  
生きもの

動物



## 交野市の状況

### ■交野市の大気(NO<sub>2</sub>)の推移



市域の大気汚染の状況を把握、監視するため、市役所の庁舎屋上で24時間の連続測定を行っています。二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)の値は0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であり、環境基準を満たしています。

### ■交野市の水質(BOD値)の推移



河川水質調査は、天野川では、羽衣橋(生駒市・四條畷市境)、逢合橋、藤田橋(枚方市境)の3地点において実施しています。水の汚れの度合いを示すBOD(平均値)の経年変化については、変動がみられるものの、3地点とも環境基準値(3mg/L以下)を達成しています。

## 施策

### ■安全・安心な生活環境

環境調査・監視の実施 / 水環境の保全 / 地球温暖化適応策 / まちなかの空き家の発生抑制

### ■まちなかのグリーンインフラの創出

まちの美化・緑化運動の推進 / 公園の適切な維持管理



▲妙見河原の桜

### ■観光・文化資源の保全

観光資源の活用 / 文化財の保護

## 市民・事業者・行政の役割

	今すぐできること	状況を見て実行できること
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美化・緑化運動への参加</li> <li>・グリーンカーテンの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の発生抑制</li> </ul>
事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を活かした観光資源のPR</li> </ul>	
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気・水質・騒音・振動・土壌の調査と公表</li> <li>・公園の適切な維持管理</li> <li>・自然を活かした観光資源のPR</li> <li>・文化財の保護</li> <li>・公共施設に太陽光発電を屋根としたカーポートの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山地の適切な保全</li> <li>・空き家の発生抑制</li> </ul>

#### 用語解説

**ヒートアイランド現象(ヒートアイランドげんしょう)**  
都市部でアスファルトからの熱、エアコンや車からの排熱など、人口の排熱が多くなる一方で、自然風が通り抜けることを建物に阻害されることで、都市部の気温が郊外よりも高くなる現象。

#### 適応策(てきおうさく)

すでに起きている、あるいは今後起こる可能性のある地球温暖化の現象に対して、その影響を防止・軽減するために行うこと。例えば、農作物の新しい品種の開発や、熱中症予防のために暑さ指数を確認したりすることがある。

### コラム 交野の水道水ができるまで

みなさんが普段使っている水道水は、どこでどのように作られているか、ご存知でしょうか？

じつはその8割\*が、市内各所にある地下200~300mの17本の深井戸からくみ上げられた地下水が元になっています。

この地下水は、私市にある「星の里浄水場」で浄水処理を行っていますが、その方法として、微生物の働きによる「生物接触ろ過方式」という、自然の力を利用した「環境にやさしい」処理を行っています。この方式により、使用する薬品が少なくてすみ、より「安心・安全」でお

いしい水道水を作ることができます。

※残り2割は村野浄水場からの水道水をブレンドしています。

交野の大切な水資源を守るためにも、環境保全に取り組みましょう。

水の上手な使い方 地下水は、有限で貴重な資源です。節水に努めましょう



ハミガキの水は、コップにくんで



洗車の水は、バケツにくんで



お風呂の残り湯を再利用

### コラム 中学生と2050年の交野市を考える

カーボンニュートラルを目指す2050年に、社会の中心世代となる中学生たちと一緒に、2050年にどんな交野市になってほしいかを一緒に考え、発表してもらいました。交野の緑を残したい、動植物の生きる世界を守りたい、ごみを減らすためにリユースの仕組みを作りたい、地元愛の気持ちを大事に人と人のつながりを作りたい、などなど、たくさんの提案をもらいました。



▲交野市環境基本計画ジュニア委員会